

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0786
施設名	西国分寺保育園
施設所在地	国分寺市西恋ヶ窪 2-18-1
法人名	社会福祉法人国立保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

氷の変化

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

家庭でもよく触れる氷をじっくりと時間をかけて触れることで、氷の冷たさや感触、変化に関心を持ってらいたかったため。

2. 活動スケジュール

2025年6月27日 10:00~11:15

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

球体の氷・ブロックの動物を一緒に凍らせた氷・大きなタライ・トレイ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・氷が入ったタッパーに触れ、冷たさを感じて関心に繋げる。
- ・タッパーの蓋に付いた霜に触れ、冷たさや解ける変化を楽しむ。
- ・タライやトレイに氷を出し、両手で持ったり表面に触れたりして氷の感触や冷たさ、氷が解けて水が出てくる変化を楽しむ。
- ・氷が解けてブロックの動物が出てきたことで、氷が解けてきたことを感じる。
- ・氷を太陽の光に当て、氷の変化や光の変化を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・霜に触れ集めたり、触ったことですぐになくなってしまふことに驚いたりしていた。
- ・氷の表面が場所によってツルツルしている場所やザラザラしている場所があり、保育士の声掛けで子ども達も触って違いを感じていた。
- ・球体の氷が持ちやすく、両手で持って友だちや保育士に持てたことを伝えていた。
- ・球体の氷をトレイに入れ、動かして遊んでいる子もいた。
- ・氷に触れたことで手が冷たくなり、自分の頬や足に触れて冷たさを楽しんでいた。手が冷たくなりすぎると、保育士に「いたい」「つめたい」と冷たいことを伝えていた。
- ・氷が解けてきたことで水が出てきたので、子ども達も「おみずあった」と触れていた。
- ・氷が解けてきたことで一緒に凍っていた動物の体が出てきて、「しまうまあった」と一生懸命取り出そうとしていた。“助けてあげよう”という保育士の声掛けで、保育士と一緒に一生懸命氷の表面を撫で、動物を助け出そうとしていた。
- ・氷がなかなか解けなかったのでタライを窓際に移動させ、太陽の光に当てると「きらきらしてる」と光の反射に気付いていた。環境が変わったことで飽きてきていた子も再度氷に触れ、冷たさを楽しんでいた。
- ・動物を全て助け出すことができると、「でてきた！」と喜んでいた。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 容器の冷たさ・霜・氷のそれぞれの感触を子ども達が楽しみ、友だちにも冷たくなった手や氷に触れたことで触れたことなど、関わりのきっかけとなっていた。
- ・ 動物と一緒に凍らせた方により関心を示すと思っていたが、球体の氷の方が持ちやすくトレイに載せて動かすことを楽しんでいた。
- ・ 動物を氷から出そうと氷の表面を一生懸命撫でたり、叩いたりして工夫する姿が見られた。
- ・ 氷がなかなか解けずに飽きていたが、場所を変えることによって光の反射などもあり子どもの関心が高まっていた。